

21世紀COEプログラムの概要

21st Century COE Program



2008 - 09

文部科学省

独立行政法人日本学術振興会

目次

21世紀COEプログラムについて

趣旨・目的/特徴……………2

審査の概要……………4

中間評価の概要……………6

事後評価の概要……………9

<参考1>採択拠点一覧

平成14年度採択……………11

平成15年度採択……………16

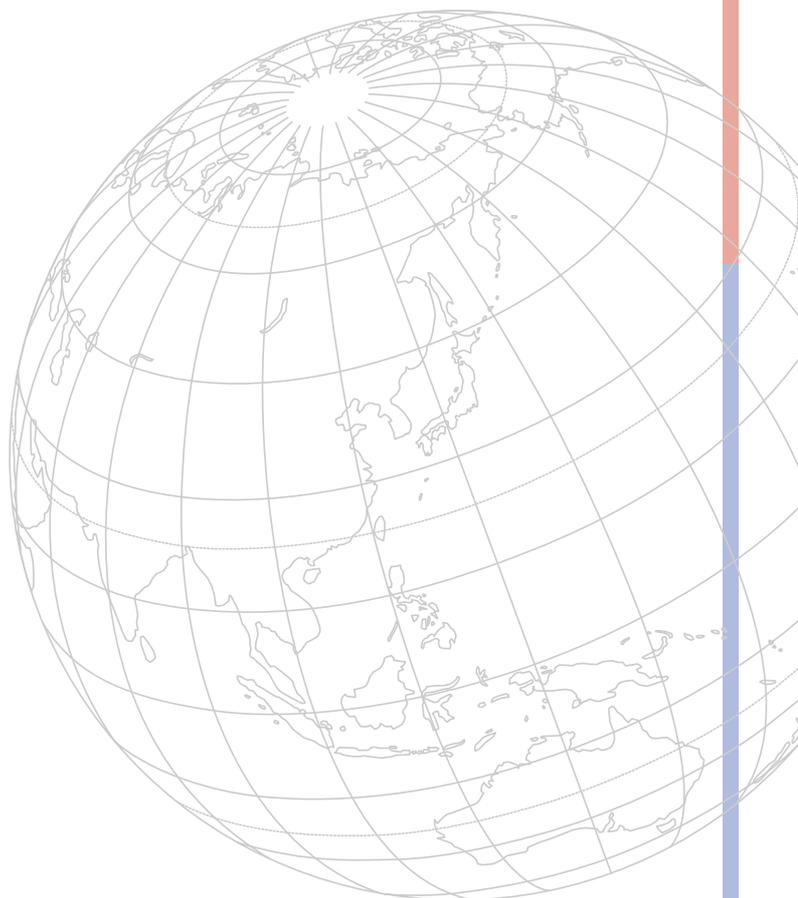
平成16年度採択……………21

<参考2>21世紀COEプログラム採択拠点における個別具体例について

平成14年度採択……………22

平成15年度採択……………24

平成16年度採択……………28



21世紀COE プログラム について

趣旨・目的

21世紀COEプログラムは、「大学の構造改革の方針」（平成13年6月）に基づき、平成14年度から文部科学省の事業（研究拠点形成費等補助金）として措置されたものです。

我が国の大学が、世界トップレベルの大学と伍して教育及び研究活動を行っていくためには、第三者評価に基づく競争原理により競争的環境を一層醸成し、国公私を通じた大学間の競い合いがより活発に行われることが重要です。このプログラムは、我が国の大学に世界最高水準の研究教育拠点を形成し、研究水準の向上と世界をリードする創造的な人材育成を図るため、重点的な支援を行うことを通じて、国際競争力のある個性輝く大学づくりを推進することを目的としています。

特徴

○大学の競争的環境の促進

学長のリーダーシップのもとでの最高水準の研究教育拠pointsの形成を支援することにより、大学の競争的環境を促進しています。

①事業の対象

国公立大学（学校教育法第2条第2項に規定する国立学校、公立学校及び私立学校である大学）における次のような大学院研究科専攻等（博士課程レベル）が、世界的な研究教育拠点を形成するための事業計画を対象とします。

1. 大学院研究科（博士課程レベル）の専攻、複数専攻の組み合わせ
2. 大学附置の研究所、研究センター等（研究水準が博士課程レベル相当）の研究組織、複数研究組織の組み合わせ
3. 上記1と2の組み合わせ



②具体的な事業計画例

本事業による拠点形成を推進する上での具体的な計画として、例えば、以下のようなものが挙げられます。

- 世界のトップレベルの研究者の招へい
- トップレベルの教員による指導
- 学生の高度な自発的研究
- TA、RA、ポストクなど、優秀な若手研究者の支援
- 世界のトップレベルの大学等との共同研究の実施
- 学会、シンポジウム等の企画・開催 等

○専門家や有識者による審査・評価体制の充実

研究拠点形成費等補助金の審査及び評価に関する業務を行うため、21世紀COEプログラム委員会を設け、専門家や有識者による審査・評価を行っています。

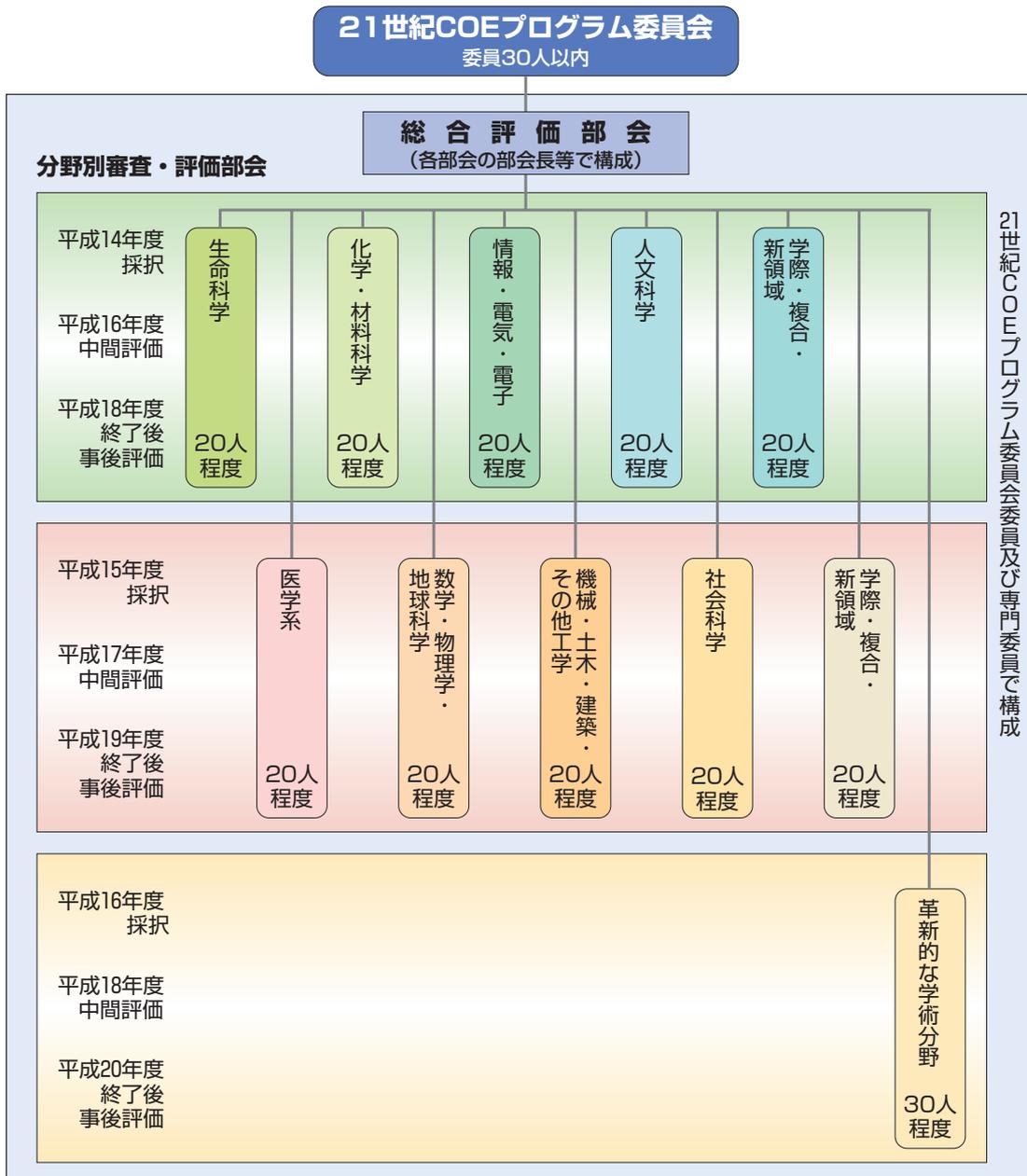
予 算

平成20年度 約39億円（予定）

ホームページ

文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/coe/

独立行政法人日本学術振興会 <http://www.jsps.go.jp/j-21coe/>



審査の概要

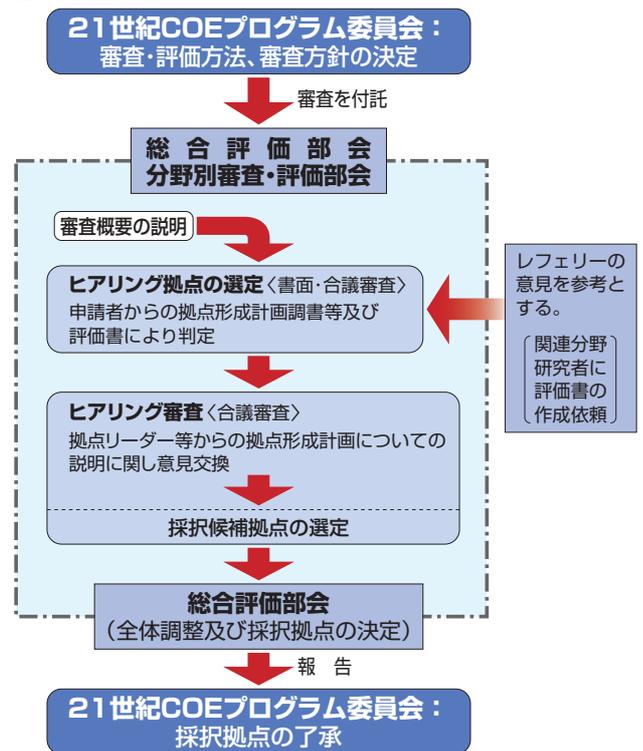
○審査対象

年度	分野	細分野 (例示)
平成14年度	生命科学	バイオサイエンス、生物学、医用工学・生体工学、農学、薬学 等
	化学・材料科学	化学、材料科学、金属工学、繊維工学、プロセス工学 等
	情報・電気・電子	情報科学、電気通信工学 等
	人文科学	文学、史学、哲学、心理学、教育学、演劇、言語学、芸術 等
	学際・複合・新領域	環境科学、生活科学、エネルギー科学、地域研究、国際関係 等
平成15年度	医学系	医学、歯学、看護学、保健学 等
	数学・物理学・地球科学	数学、物理学、地球科学、応用物理学 等
	機械・土木・建築・その他工学	機械工学、システム工学、土木工学、建築工学 等
	社会科学	法学、政治学、経済学、経営学、社会学、総合政策 等
	学際・複合・新領域	環境科学、生活科学、エネルギー科学、地域研究、国際関係 等
平成16年度	革新的な学術分野	—

○審査方針

- ①当該分野における研究上、優れた成果を挙げ、将来の発展性もあり、高度な研究能力を有する人材育成機能を持つ研究教育拠点の形成が期待できるもの
- ②学長を中心としたマネジメント体制による指導力の下、個性的な将来計画と強い実行力により、世界的な研究教育拠点形成が期待できるもの
- ③特色ある学問分野の開拓を通じて独創的、画期的な成果が期待できるもの
- ④21世紀COEプログラムで行う事業が終了した後も、世界的な研究教育拠点としての継続的な研究教育活動が期待できるものに留意し、選定しています。

○審査手順



○採択状況

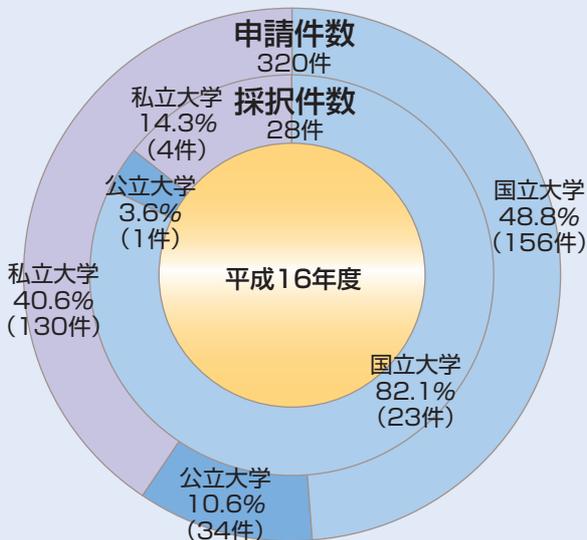
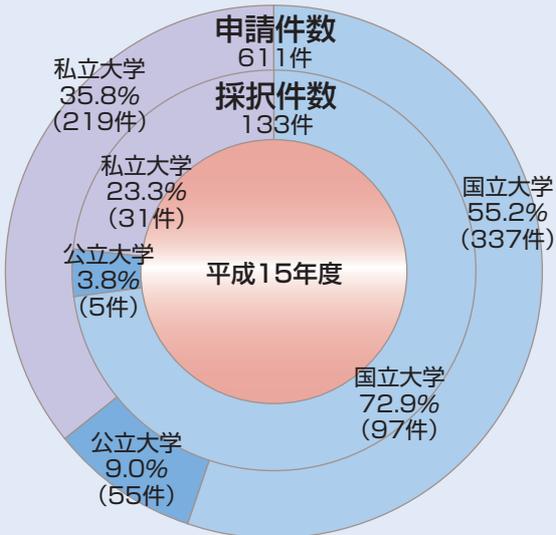
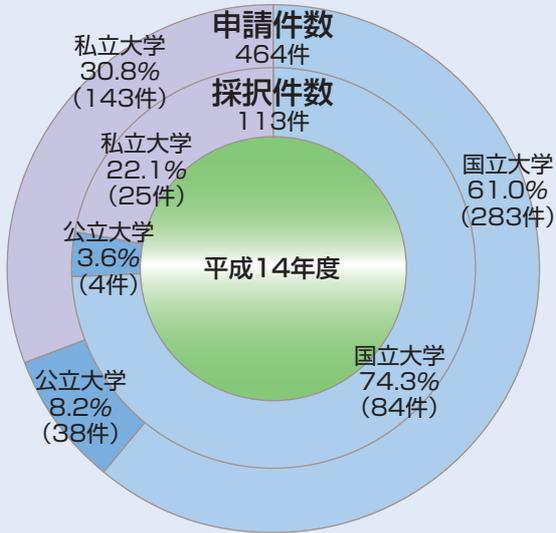
平成14年度	採択件数：113件 (申請件数：464件)				
	生命科学：28件	化学・材料科学：21件	情報・電気・電子：20件	人文科学：20件	学際・複合・新領域：24件
平成15年度	採択件数：133件 (申請件数：611件)				
	医学系：35件	数学・物理学・地球科学：24件	機械・土木・建築・その他工学：23件	社会科学：26件	学際・複合・新領域：25件
平成16年度	革新的な学術分野		採択件数：28件 (申請件数：320件)		
総計			採択件数：274件 (申請件数：1,395件)		

※平成17年度以降の新規公募は行っておりません。

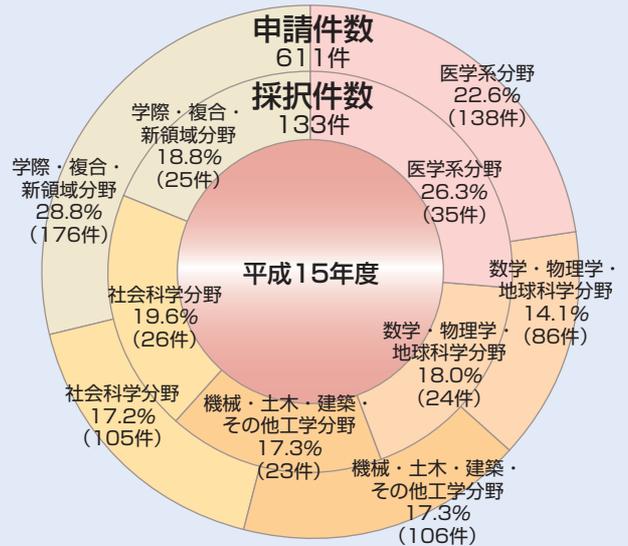
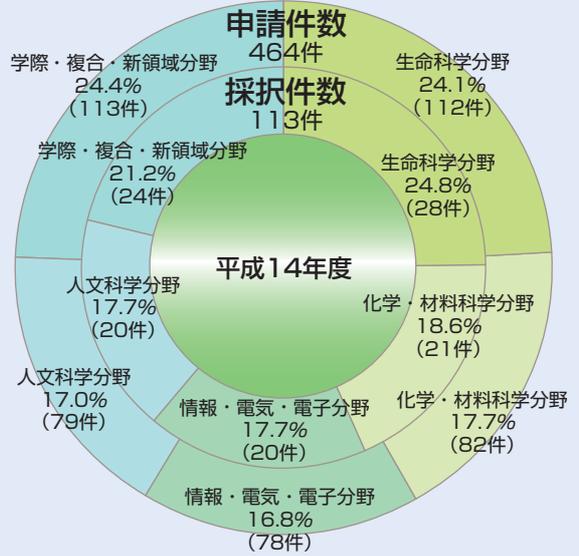
※平成14年度採択拠点については、平成19年3月で補助事業を終了しています。

※平成15年度に採択された拠点のうち、採択後、事業実施期間中に3拠点が辞退したため、平成20年3月現在の事業実施拠点数は158件となっています。

国公私別申請・採択状況



分野別申請・採択状況



中間評価の概要

○評価の目的

研究拠点形成費等補助金による「21世紀COEプログラム」事業の効果的な実施を図り、その目的が十分達成されるよう、専門家や有識者により補助事業の進捗状況等を確認し、適切な助言を行うとともに、補助金の適正配分（重点的・効率的配分）に資することを目的としています。

○評価の時期

各研究教育拠点の補助事業について、2年経過後に中間評価、期間終了後に事後評価、必要に応じてフォローアップを実施することとしています。

○評価の実施

補助事業の進捗状況等の評価を行うにあたり、当該評価の公正さ、信頼性を確保し、実効性のある評価を実施するために、評価項目、評価方法を定めています。

○評価項目

<運営状況>

- ・学長を中心としたマネジメント体制の下、重点的な支援が行われているか
- ・革新的な学術分野の開拓を目指す拠点形成の当初目的に沿って、計画は着実に進展しているか
- ・研究活動において、新たな学術的知見の創出や特筆すべきことがあったか
- ・若手研究者が有為な人材として活躍できるような仕組みを措置し、機能しているか
- ・拠点リーダーを中心として事業推進担当者相互の有機的な連携が保たれ、活発な研究活動が展開される組織となっているか
- ・国際競争力のある大学づくりに資するための取り組みを行っているか
- ・研究経費は効率的・効果的に使用されているか
- ・国内外に向けて積極的な情報発信が行われているか

<今後の展望>

- ・今後、拠点形成を進める上で改善点を検討し、適切に対応しているか
- ・COEとして、研究を通じた人材育成の評価、国際的評価、国内の関連する学会での評価、産学官

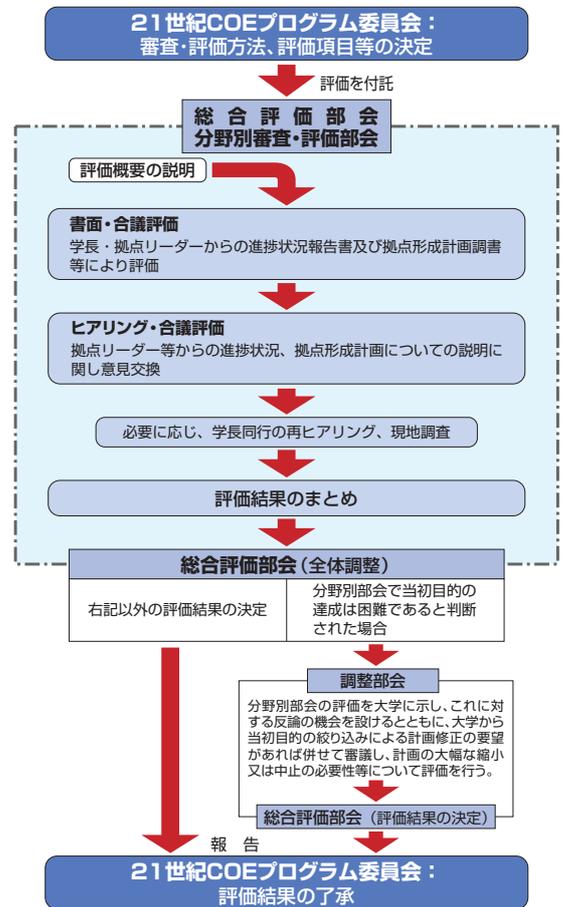
連携の視点からの評価、社会貢献等が期待できるか

- ・拠点形成計画が当初目的の実現に向け着実に実施されており、革新的な学術分野の開拓を通じて独創的、画期的な成果が期待できるか

○評価方法

分野別評価部会の各部会（平成18年度の中間評価の対象部会は革新的な学術分野部会）において書面評価及びヒアリング・合議評価、必要に応じ現地調査等を実施することとしています。

○評価手順



○評価の反映

21世紀COEプログラム委員会は、個々の拠点形成プログラムの評価結果を文部科学省に報告し、文部科学省が行う4年次以降の補助金の適正配分（増額、減額又は廃止等）に資することとしています。また、拠点形成の推進に向けて適切な助言を行うために、各研究教育拠点に対しこの評価結果を通知（開示）することとしています。

○中間評価における分野別総括評価

平成14年度採択

総括評価	生命科学 件	化学・ 材料科学 件	情報・電気・ 電子 件	人文科学 件	学際・複合・ 新領域 件	5分野 件
<input type="checkbox"/> 当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される。	12	13	6	2	8	41 件
<input type="checkbox"/> 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。	16	8	13	10	13	60
<input type="checkbox"/> このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等を考慮し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される。	0	0	1	6	3	10
<input type="checkbox"/> 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を継続するためには、助言等に沿って、当初目的を絞り込んだ上で当初計画を大幅に縮小することが必要と判断される。	0	0	0	2	0	2
<input type="checkbox"/> 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を中止することが必要と判断される。	0	0	0	0	0	0
計	28	21	20	20	24	113

平成15年度採択

総括評価	医学系 件	数学・物理学・ 地球科学 件	機械・土木・建築・ その他工学 件	社会科学 件	学際・複合・ 新領域 件	5分野 件
<input type="checkbox"/> 当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される。	16	11	11	13	7	58 件
<input type="checkbox"/> 当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。	17	12	11	12	17	69
<input type="checkbox"/> このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される。	2	0	1	0	1	4
<input type="checkbox"/> 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を継続するためには、助言等に沿って、当初目的を絞り込んだ上で当初計画を大幅に縮小することが必要と判断される。	0	0	0	0	0	0
<input type="checkbox"/> 現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を中止することが必要と判断される。	0	0	0	0	0	0
計	35	23	23	25	25	131

平成16年度採択

総括評価	革新的な学術分野
□当初計画は順調に実施に移され、現行の努力を継続することによって目的達成が可能と判断される。	10 件
□当初目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要と判断される。	17
□このままでは当初目的を達成することは難しいと思われるので、助言等に留意し、当初計画の適切なる変更が必要と判断される。	1
□現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を継続するためには、助言等に沿って、当初目的を絞り込んだ上で当初計画を大幅に縮小することが必要と判断される。	0
□現在までの進捗状況等に鑑み、今後の努力を待っても当初目的の達成は困難と思われるので、拠点形成を中止することが必要と判断される。	0
計	28

事後評価の概要

○評価の目的

事後評価は、以下の3点を目的として行われます。

- ①設定された目的に沿って拠点形成計画が効果的に達成されたか、また、中間評価結果による留意事項への対応が適切に行われたかについて評価する。
- ②事後評価結果を各拠点に示すことにより、補助事業終了後の研究教育活動の持続的展開及びその水準の向上とさらなる発展に資するため、適切な助言を行う。
- ③各拠点の活動の成果等を明らかにし、社会に公表することにより、各拠点での研究教育活動が広く国民の理解と支援が得られるよう促進する。

○評価の時期

各研究教育拠点の補助事業について、期間終了後に実施します。

○評価の実施

補助事業の進捗状況等の評価を行うにあたり、当該評価の公正さ、信頼性を確保し、実効性のある評価を実施するために、評価項目、評価方法を定めています。

○評価項目

補助事業の進捗状況や達成度等の評価を行うにあたり、当該評価の公正さ、信頼性を確保し、実効性のある評価を実施するために、以下の評価項目を定めています。

<運営状況>

- ・学長を中心としたマネジメント体制の下、重点的な支援が行われたか
- ・世界最高水準の研究教育拠点形成計画全体の目的は達成できたか
- ・人材育成面で、具体的にどのような若手研究者が育成され、また、研究教育拠点の形成にどれだけ寄与したか
- ・研究活動面で、新たな分野の創成や学術的知見等があったか
- ・拠点リーダーを中心とした事業推進担当者相互の有機的な連携が図られ、活発な研究活動が展開される組織が構築され、機能したか

- ・国際競争力のある大学づくりに資することができたか
- ・国内外に向けて積極的な情報発信が行われたか
- ・補助金は、効率的・効果的に使用されたか

<留意事項への対応>

- ・21世紀COEプログラム委員会の審査結果・中間評価結果による留意事項への対応は適切に行われたか

<今後の展望>

- ・補助事業終了後、大学として、世界的な研究教育拠点における研究教育活動を維持していくための具体的な支援を考慮しているか。または、すでに着手しているか。
- ・今後、研究教育活動を持続的に展開していく上での将来展望が示されているか

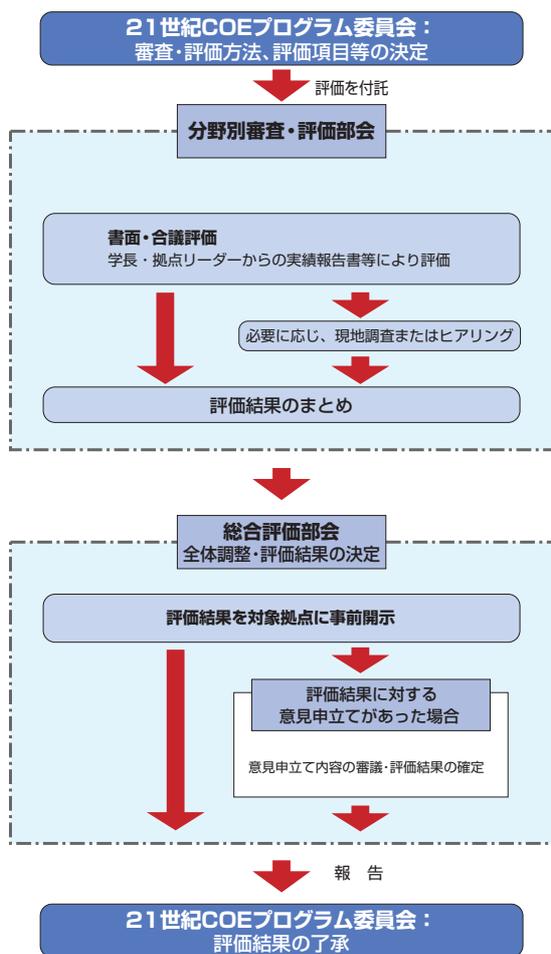
<その他>

- ・世界的な研究教育拠点の形成が、学内外にどのような影響を与えたか

○評価方法

分野別審査・評価部会（平成20年度の事後評価の対象部会は、医学系、数学・物理学・地球科学、機械・土木・建築・その他工学、社会科学、学際・複合・新領域の5部会）において、書面・合議評価及び必要に応じ現地調査・ヒアリング・合議評価によって評価を行います。

○評価手順



○評価の反映

- ①21世紀COEプログラム委員会は、了承した各拠点の事後評価結果を文部科学省に報告するとともに、補助事業終了後の研究教育活動の持続的展開に資するため、各拠点に対し開示します。
- ②評価終了後、各拠点の活動の成果等と事後評価結果を報告書として取りまとめ、広く社会に公開します。

○事後評価における分野別総括評価

平成14年度採択

総括評価	生命科学 件	化学・ 材料科学 件	情報・電気・ 電子 件	人文科学 件	学際・複合・ 新領域 件	5分野 件
<input type="checkbox"/> 設定された目的は十分達成され、期待以上の成果があった	5	9	6	4	7	31
<input type="checkbox"/> 設定された目的は概ね達成され、期待どおりの成果があった	20	9	14	11	14	68
<input type="checkbox"/> 設定された目的はある程度達成された	3	3	0	5	3	14
<input type="checkbox"/> 設定された目的は十分には達成されなかった	0	0	0	0	0	0
計	28	21	20	20	24	113

〈参考1〉採択拠点一覧

※機関名、専攻等名、リーダー名は平成19年3月現在

平成14年度採択【分野名：生命科学】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
A01	バイオとナノを融合する新生命科学拠点	北海道大学	理学研究院生命理学部門	長田 義仁
A02	動物性蛋白質資源の生産向上と食の安全確保 (特に原虫病研究を中心として)	帯広畜産大学	原虫病研究センター	五十嵐 郁男
A03	バイオナノテクノロジー基盤未来医工学	東北大学	工学研究科バイオロボティクス専攻	佐藤 正明
A04	細胞の運命決定制御	秋田大学	医学研究科構造機能系専攻	鈴木 聡
A05	複合生物系応答機構の解析と農学的高度利用	筑波大学	生命環境科学研究科生物機能科学専攻	深水 昭吉
A06	生体情報の受容伝達と機能発現	群馬大学	生体調節研究所	岡島 史和
A07	生体シグナル伝達機構の領域横断的研究	東京大学	医学系研究科機能生物学専攻	高橋 智幸
A08	「個」を理解するための基盤生命学の推進	東京大学	理学系研究科生物科学専攻	山本 正幸
A09	戦略的基礎創薬科学	東京大学	薬学系研究科生命薬学専攻	杉山 雄一
A10	生命工学フロンティアシステム	東京工業大学	生命理工学研究科生命情報専攻	半田 宏
A11	システム生命科学：分子シグナル系の統合	名古屋大学	理学研究科生命理学専攻	町田 泰則
A12	新世紀の食を担う植物バイオサイエンス	名古屋大学	生命農学研究科生物機構・機能科学専攻	水野 猛
A13	先端生命科学の融合相互作用による拠点形成	京都大学	生命科学研究科統合生命科学専攻	米原 伸
A14	生物多様性研究の統合のための拠点形成	京都大学	理学研究科生物科学専攻	佐藤 矩行
A15	生体システムのダイナミクス	大阪大学	生命機能研究科生命機能専攻	柳田 敏雄
A16	細胞超分子装置の作動原理の解明と再構成	大阪大学	理学研究科生物科学専攻	月原 富武
A17	蛋白質のシグナル伝達機能	神戸大学	バイオシグナル研究センター	吉川 潮
A18	フロンティアバイオサイエンスへの展開 (細胞機能を支える動的分子ネットワーク)	奈良先端科学技術大学院大学	バイオサイエンス研究科細胞生物学専攻	磯貝 彰
A19	統合生命科学 (ポストゲノム時代の生命高次機能の探究)	九州大学	理学府生物科学専攻	藤木 幸夫
A20	細胞系譜制御研究教育ユニットの構築	熊本大学	発生医学研究センター	田賀 哲也
A21	生理活性ペプチドと生体システムの制御	宮崎大学	医学研究科生体制御系専攻	中山 建男
A22	構造生物学を軸とした分子生命科学の展開	兵庫県立大学	生命理学研究科生命科学専攻	吉川 信也
A23	天然素材による抗感染症薬の創製と基盤研究	北里大学	北里生命科学研究所・感染制御科学府	大村 智
A24	システム生物学による生命機能の理解と制御	慶應義塾大学	理工学研究科基礎理工学専攻	柳川 弘志
A25	ヒト複合形質の遺伝要因とその制御分子探索	東海大学	医学研究科先端医科学専攻	猪子 英俊
A26	微生物共生系に基づく新しい資源利用開発	日本大学	生物資源科学研究科応用生命科学専攻	別府 輝彦
A27	放射光生命科学研究	立命館大学	理工学研究科総合理工学専攻	山田 廣成
A28	食資源動物分子工学研究拠点	近畿大学	生物理工学研究科生物工学専攻	入谷 明

平成14年度採択【分野名：化学・材料科学】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
B01	大分子複雑系未踏化学	東北大学	理学研究科化学専攻	山本 嘉則
B02	物質創製・材料化国際研究教育拠点	東北大学	金属材料研究所	井上 明久
B03	未来型機能を創出する学際物質科学の推進	筑波大学	数理物質科学研究科物性・分子工学専攻	門脇 和男
B04	動的分子論に立脚したフロンティア基礎化学	東京大学	理学系研究科化学専攻	岩澤 康裕
B05	化学を基盤とするヒューマンマテリアル創成	東京大学	工学系研究科応用化学専攻	平尾 公彦
B06	ナノ未来材料	東京農工大学	工学府応用化学専攻	額額 明伯
B07	分子多様性の創出と機能開拓	東京工業大学	総合理工学研究科物質電子化学専攻	山本 隆一
B08	産業化を目指したナノ材料開拓と人材育成	東京工業大学	総合理工学研究科物質科学創造専攻	細野 秀雄
B09	ハイブリッド超機能材料創成と国際拠点形成	長岡技術科学大学	工学研究科材料工学専攻	西口 郁三
B10	先進ファイバー工学研究教育拠点	信州大学	総合工学系研究科生命機能・ファイバー工学専攻	白井 汪芳
B11	物質科学の拠点形成：分子機能の解明と創造	名古屋大学	理学研究科物質理学専攻	関 一彦
B12	自然に学ぶ材料プロセッシングの創成	名古屋大学	工学研究科マテリアル理工学専攻	浅井 滋生
B13	環境調和セラミックス科学の世界拠点	名古屋工業大学	工学研究科物質工学専攻	野上 正行
B14	京都大学化学連携研究教育拠点 (新しい物質変換化学の基盤構築と展開)	京都大学	理学研究科化学専攻	齋藤 軍治
B15	学域統合による新材料科学の研究教育拠点	京都大学	工学研究科材料化学専攻	小久見 善八
B16	自然共生化学の創成	大阪大学	理学研究科高分子科学専攻	原田 明
B17	構造・機能先進材料デザイン研究拠点の形成	大阪大学	工学研究科マテリアル生産科学専攻	馬越 佑吉
B18	分子情報科学の機能イノベーション	九州大学	工学府物質創造工学専攻	新海 征治
B19	エネルギー効率化のための機能性材料の創製	青山学院大学	理工学部附置先端技術研究開発センター	秋光 純
B20	機能創造ライフコンジュゲートケミストリー	慶應義塾大学	理工学研究科基礎理工学専攻	川口 春馬
B21	実践的ナノ化学教育研究拠点	早稲田大学	理工学研究科応用化学専攻	亀田 邦明

平成14年度採択【分野名：情報・電気・電子】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
C01	知識メディアを基盤とする次世代ITの研究	北海道大学	情報科学研究科コンピュータサイエンス専攻	田中 謙
C02	新世代情報エレクトロニクスシステムの構築	東北大学	工学研究科電子工学専攻	内田 龍男
C03	情報科学技術戦略コア	東京大学	情報理工学系研究科コンピュータ科学専攻	武市 正人
C04	未来社会を担うエレクトロニクスの展開	東京大学	工学系研究科電子工学専攻	保立 和夫
C05	フォトニクスナノデバイス集積工学	東京工業大学	理工学研究科電気電子工学専攻	荒井 滋久
C06	情報通信技術に基づく未来社会基盤創生	横浜国立大学	工学研究院知的構造の創生部門電気電子と数理情報分野	河野 隆二
C07	先端プラズマ科学が拓くナノ情報デバイス	名古屋大学	工学研究科電子情報システム専攻	菅井 秀郎
C08	社会情報基盤のための音声・映像の知的統合	名古屋大学	情報科学研究科メディア科学専攻	未永 康仁
C09	インテリジェントヒューマンセンシング	豊橋技術科学大学	工学研究科博士後期課程電子・情報工学専攻	石田 誠
C10	知識社会基盤構築のための情報学拠点形成	京都大学	情報学研究科社会情報学専攻	田中 克己
C11	電気電子基盤技術の研究教育拠点形成	京都大学	工学研究科電子工学専攻	北野 正雄
C12	ネットワーク共生環境を築く情報技術の創出	大阪大学	情報科学研究科マルチメディア工学専攻	西尾 章治郎
C13	ユビキタス統合メディアコンピューティング	奈良先端科学技術大学院大学	情報科学研究科情報処理学専攻	千原 國宏
C14	テラビット情報ナノエレクトロニクス	広島大学	ナノデバイス・システム研究センター	岩田 穆
C15	システム情報科学での社会基盤システム形成	九州大学	システム情報科学府情報工学専攻	安浦 寛人
C16	アクセス網高度化光・電子デバイス技術	慶應義塾大学	理工学研究科総合デザイン工学専攻	真壁 利明
C17	電子社会の信頼性向上と情報セキュリティ	中央大学	理工学研究科情報工学専攻	辻井 重男
C18	プロダクティブICTアカデミアプログラム	早稲田大学	理工学研究科情報・ネットワーク専攻	村岡 洋一
C19	ナノファクトリー	名城大学	理工学研究科電気電子・情報・材料工学専攻	飯島 澄男
C20	マイクロ・ナノサイエンス・集積化システム	立命館大学	理工学研究科総合理工学専攻	杉山 進

平成14年度採択【分野名：人文科学】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
D01	心の文化・生態学的基盤に関する研究拠点	北海道大学	文学研究科人間システム科学専攻	山岸 俊男
D02	言語・認知総合科学戦略研究教育拠点	東北大学	国際文化研究科国際文化交流論専攻	堀江 薫
D03	共生のための国際哲学交流センター	東京大学	総合文化研究科超域文化科学専攻	小林 康夫
D04	生命の文化・価値をめぐる「死生学」の構築	東京大学	人文社会系研究科基礎文化研究専攻	島藺 進
D05	基礎学育成システムの再構築	東京大学	教育学研究科総合教育科学専攻	金子 元久
D06	言語運用を基盤とする言語情報学拠点	東京外国語大学	地域文化研究科地域文化専攻	川口 裕司
D07	誕生から死までの人間発達科学	お茶の水女子大学	人間文化研究科人間発達科学専攻	内田 伸子
D08	統合テキスト科学の構築	名古屋大学	文学研究科人文学専攻	佐藤 彰一
D09	グローバル化時代の多元的人文学の拠点形成	京都大学	文学研究科歴史文化化学専攻	紀平 英作
D10	心の働きの総合的研究教育拠点	京都大学	文学研究科行動文化化学専攻	藤田 和生
D11	インターフェイスの人文学	大阪大学	文学研究科文化表現論専攻	鷺田 清一
D12	21世紀型高等教育システム構築と質的保証	広島大学	高等教育研究開発センター	有本 章
D13	東アジアと日本：交流と変容	九州大学	比較社会文化学府日本社会文化専攻	今西 裕一郎
D14	都市文化創造のための人文科学的研究	大阪市立大学	文学研究科哲学歴史学専攻	米原 永遠男
D15	心の解明に向けての統合的方法論構築	慶應義塾大学	文学研究科哲学・倫理学専攻	西村 太良
D16	神道と日本文化の国学的研究発信の拠点形成	國學院大學	文学研究科神道学専攻	小林 達雄
D17	日本発信の国際日本学の構築	法政大学	国際日本学インスティテュート	星野 勉
D18	演劇の総合的研究と演劇学の確立	早稲田大学	坪内博士記念演劇博物館	竹本 幹夫
D19	アジア地域文化エンハンシング研究センター	早稲田大学	文学研究科芸術学（美術史）専攻	大橋 一章
D20	京都アート・エンタテインメント創成研究	立命館大学	文学研究科人文学専攻	川嶋 将生

平成14年度採択【分野名：学際・複合・新領域】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
E01	生態地球圏システム劇変の予測と回避	北海道大学	地球環境科学研究院統合環境科学部門	池田 元美
E02	健康・スポーツ科学研究の推進	筑波大学	人間総合科学研究科体育科学専攻	西平 賀昭
E03	融合科学創成ステーション	東京大学	総合文化研究科広域科学専攻	浅島 誠
E04	史資料ハブ地域文化研究拠点	東京外国語大学	地域文化研究科地域文化専攻	藤井 毅
E05	新エネルギー・物質代謝と生存科学の構築（経済性・安全性を主眼とした農工融合型物質エネルギー代謝と生存科学体系の構築）	東京農工大学	生物システム応用科学府生物システム応用科学専攻	堀尾 正毅
E06	生物・生態環境リスクマネジメント	横浜国立大学	環境情報研究院自然環境と情報部門	浦野 紘平
E07	環日本海域の環境計測と長期・短期変動予測（モニタリングネットワークの構築と人為的影響の評価）	金沢大学	自然科学研究科環境科学専攻	早川 和一
E08	野生動物の生態と病態からみた環境評価	岐阜大学	連合獣医学研究科獣医学専攻	坪田 敏男
E09	未来社会の生態恒常性工学	豊橋技術科学大学	工学研究科博士後期課程環境・生命工学専攻	藤江 幸一
E10	世界を先導する総合的地域研究拠点の形（フィールド・ステーションを活用した教育・研究体制の推進）	京都大学	アジア・アフリカ地域研究研究科東南アジア地域研究専攻	市川 光雄
E11	環境調和型エネルギーの研究教育拠点形成	京都大学	エネルギー科学研究科エネルギー社会・環境科学専攻	吉川 暉
E12	災害学理の究明と防災学の構築	京都大学	防災研究所	河田 恵昭
E13	新産業創造指向インターナノサイエンス	大阪大学	産業科学研究所高次制御材料科学研究部門	川合 知二
E14	乾燥地科学プログラム	鳥取大学	乾燥地研究センター	恒川 篤史
E15	沿岸環境科学研究拠点	愛媛大学	沿岸環境科学研究センター	田辺 信介
E16	海洋エネルギーの先導的利用科学技術の構築	佐賀大学	海洋エネルギー研究センター	門出 政則
E17	放射線医療科学国際コンソーシアム	長崎大学	医歯薬学総合研究科放射線医療科学専攻	朝長 万左男
E18	先導的健康長寿学術研究推進拠点	静岡県立大学	生活健康科学研究科食品栄養科学専攻	木苗 直秀
E19	水を反応場に用いる有機資源循環科学・工学	大阪府立大学	工学研究科物質・化学系専攻	吉田 弘之
E20	次世代メディア・知的社会基盤	慶應義塾大学	政策・メディア研究科政策・メディア専攻	徳田 英幸
E21	地域立脚型グローバル・スタディーズの構築	上智大学	グローバル・スタディーズ地域研究専攻	村井 吉敬
E22	全人的人間科学プログラム（脳の学習・記憶・推論・思考のメカニズムの究明とその教育技術への応用）	玉川大学	学術研究所	塚田 稔
E23	現代アジア学の創生	早稲田大学	政治学研究科政治学専攻	毛里 和子
E24	国際中国学研究センター	愛知大学	中国研究科中国研究専攻	加々美 光行

平成15年度採択【分野名：医学系】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
F01	人獣共通感染症制圧のための研究開発	北海道大学	獣医学研究科獣医学専攻	高島 郁夫
F02	シグナル伝達病の治療戦略創生拠点	東北大学	医学系研究科医科学専攻	菅村 和夫
F03	地域特性を生かした分子疫学研究	山形大学	医学系研究科医学専攻	河田 純男
F04	消化器扁平上皮癌の最先端多戦略治療拠点：遺伝子治療と重粒子線治療の遺伝子解析に基づくテーラーメイド化	千葉大学	医学薬学府先進医療科学専攻	丹沢 秀樹
F05	日本文化型看護学の創出・国際発信拠点(実践知に基づく看護学の確立と展開)	千葉大学	看護学研究科看護学専攻	石垣 和子
F06	脳神経医学の融合的研究拠点	東京大学	医学系研究科脳神経医学専攻	辻 省次
F07	環境・遺伝素因相互作用に起因する疾患研究-システム疾患生命科学の研究拠点形成-	東京大学	医学系研究科内科学専攻	永井 良三
F08	ゲノム医学の展開による先端医療開発拠点	東京大学	医科学研究所	中村 祐輔
F09	歯と骨の分子破壊と再構築のフロンティア(ゲノム歯骨科学とナノサイエンスの研究教育拠点)	東京医科歯科大学	医歯学総合研究科器官システム制御学系専攻	野田 政樹
F10	脳の機能統合とその失調	東京医科歯科大学	医歯学総合研究科認知行動医学系専攻	水澤 英洋
F11	脳神経病理学研究教育拠点形成	新潟大学	脳研究所	高橋 均
F12	生体画像医学の統合研究プログラム	福井大学	高エネルギー医学研究センター	藤林 康久
F13	メディカルフォトニクス—こころとからだの危険を探る—	浜松医科大学	量子医学研究センター	寺川 進
F14	神経疾患・腫瘍の統合分子医学の拠点形成	名古屋大学	医学系研究科細胞情報医学専攻	祖父江 元
F15	病態解明を目指す基礎医学研究拠点(多重遺伝子変異モデルによる病態解明)	京都大学	医学研究科医学専攻	本庶 佑
F16	融合的移植再生治療を目指す国際拠点形成	京都大学	医学研究科医学専攻	内山 卓
F17	感染症学・免疫学融合プログラム	大阪大学	医学系研究科予防環境医学専攻	菊谷 仁
F18	疾患関連糖鎖・タンパク質の統合的機能解析	大阪大学	医学系研究科生体生理医学専攻	谷口 直之
F19	フロンティアバイオデンティストリーの創生	大阪大学	歯学研究科分子病態口腔科学専攻	米田 俊之
F20	糖尿病をモデルとしたシグナル伝達病拠点	神戸大学	医学系研究科医科学専攻	春日 雅人
F21	放射線災害医療開発の先端的な研究教育拠点—ゲノム障害科学に基づく学術基盤の確立と医療展開—	広島大学	原爆放射線医学研究所	神谷 研二
F22	多因子疾患克服に向けたプロテオミクス研究	徳島大学	ヘルスバイオサイエンス研究部	松本 俊夫
F23	大規模コホートに基づく生活習慣病研究教育-久山型研究を応用した日本人特有の発症因子の解明と先端医療の開発-	九州大学	医学系学府臓器機能医学専攻	高柳 涼一
F24	熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点	長崎大学	熱帯医学研究所	青木 克己
F25	細胞極性システム研究に基づく未来医療創成(からだの形づくりの仕組みの解明から病気の克服へ)	横浜市立大学	医学研究科生命分子情報医科学専攻	大野 茂男
F26	ユビキタス社会における災害看護拠点の形成	兵庫県立大学	看護学研究科看護学専攻	山本 あい子
F27	先端医科学の地域医療への展開	自治医科大学	医学研究科人間生物学系専攻	小澤 敬也
F28	低侵襲・新治療開発による個別化癌医療確立	慶應義塾大学	医学研究科外科系専攻	河上 裕
F29	幹細胞医学と免疫学の基礎・臨床一体型拠点—ヒト細胞とin vivo 実験医学を基盤とした新しい展開—	慶應義塾大学	医学研究科生理学専攻	岡野 栄之
F30	病院感染予防のための国際的教育研究拠点	順天堂大学	医学研究科環境と人間専攻	平松 啓一
F31	市民主導型の健康生成をめざす看護形成拠点	聖路加看護大学	看護学研究科看護学専攻	小松 浩子
F32	再生医学研究センター(細胞シート工学を基盤とする臓器再生医療の発展)	東京女子医科大学	医学研究科先端生命医科学系専攻	岡野 光夫
F33	超低侵襲標的化診断治療開発センター	藤田保健衛生大学	医学研究科内科系専攻	浅野 喜造
F34	難病の革新的治療法の開発研究—骨髄内骨髄移植を用いた難病モデルでの検討—	関西医科大学	医学研究科先端医療学専攻	池原 進
F35	先端的な癌治療研究の拠点	久留米大学	先端癌治療研究センター	伊東 恭悟

平成15年度採択【分野名：数学・物理学・地球科学】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
G01	特異性から見た非線形構造の数学	北海道大学	理学研究院数学部門	小澤 徹
G02	物質階層融合科学の構築	東北大学	理学研究科物理学専攻	橋本 治
G03	先端地球科学技術による地球の未来像創出	東北大学	理学研究科地学専攻	大谷 栄治
G04	超高性能有機ソフトデバイスフロンティア	千葉大学	融合科学研究科ナノサイエンス専攻	上野 信雄
G05	科学技術への数学新展開拠点	東京大学	数理科学研究科数理科学専攻	楠岡 成雄
G06	極限量子系とその対称性	東京大学	理学系研究科物理学専攻	佐藤 勝彦
G07	多圏地球システムの進化と変動の予測可能性—観測地球科学と計算地球科学の融合拠点の形成—	東京大学	理学系研究科地球惑星科学専攻	山形 俊男
G08	強相関物理工学	東京大学	工学系研究科物理工学専攻	十倉 好紀
G09	量子ナノ物理学	東京工業大学	理工学研究科物性物理学専攻	安藤 恒也
G10	コヒーレント光科学の展開	電気通信大学	電気通信学研究科量子・物質工学専攻	白田 耕藏
G11	宇宙と物質の起源：宇宙史の物理学的解読	名古屋大学	理学研究科素粒子宇宙物理学専攻	福井 康雄
※ G12	等式が生む数学の新概念	名古屋大学	多元数理科学研究科多元数理科学専攻	宇澤 達
G13	太陽・地球・生命圏相互作用系の変動学	名古屋大学	環境学研究科地球環境科学専攻	安成 哲三
G14	先端数学の国際拠点形成と次世代研究者育成	京都大学	数理解析研究所	柏原 正樹
G15	物理学の多様性と普遍性の探求拠点—素核・物性・宇宙を統合して推進する研究と教育—	京都大学	理学研究科物理学・宇宙物理学専攻	小山 勝二
G16	活地球圏の変動解明：アジア・オセアニアから世界への発信	京都大学	理学研究科地球惑星科学専攻	余田 成男
G17	究極と統合の新しい基礎科学	大阪大学	理学研究科物理学専攻	大貫 惇睦
G18	物質機能の科学的解明とナノ工学の創出	大阪大学	基礎工学研究科物質創成専攻	三宅 和正
G19	惑星系の起源と進化	神戸大学	理学研究科地球惑星科学専攻	向井 正
G20	固体地球科学の国際研究拠点形成	岡山大学	地球物質科学研究センター	中村 栄三
G21	機能数理学の構築と展開	九州大学	数理学府数理学専攻	中尾 充宏
G22	結び目を焦点とする広角度の数学拠点の形成	大阪市立大学	理学研究科数物系専攻	河内 明夫
G23	統合数理科学：現象解明を通じた数学の発展	慶應義塾大学	理工学研究科基礎理工学専攻	前田 吉昭
G24	多元要素からなる自己組織系の物理	早稲田大学	先進理工学研究科物理学及応用物理学専攻	石渡 信一

※(G12)名古屋大学「等式が生む数学の新概念」の拠点については、大学からの辞退の申し出により、平成17年9月をもって拠点形成が中止となりました。

平成15年度採択【分野名：機械・土木・建築・その他工学】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
H01	流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム	北海道大学	工学研究科環境創生工学専攻	渡辺 義公
H02	ナノテクノロジー基盤機械科学フロンティア	東北大学	工学研究科機械システムデザイン工学専攻	庄子 哲雄
H03	流動ダイナミクス国際研究教育拠点	東北大学	流体科学研究所	圓山 重直
H04	機械システム・イノベーション	東京大学	工学系研究科機械工学専攻	笠木 伸英
H05	都市空間の持続再生学の創出	東京大学	工学系研究科都市工学専攻	大垣 眞一郎
H06	先端ロボット開発を核とした創造技術の革新	東京工業大学	理工学研究科機械宇宙システム専攻	廣瀬 茂男
H07	都市地震工学の展開と体系化	東京工業大学	総合理工学研究科人間環境システム専攻	大町 達夫
H08	世界の持続的発展を支える革新的原子力	東京工業大学	理工学研究科原子核工学専攻	関本 博
H09	アジアモンスーン域流域総合水管理研究教育	山梨大学	医学工学総合研究部環境社会創生工学専攻	砂田 憲吾
H10	情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス	名古屋大学	工学研究科マイクロ・ナノシステム工学専攻	福田 敏男
H11	動的機能機械システムの数理モデルと設計論	京都大学	工学研究科機械理工学専攻	榎木 哲夫
H12	原子論的生産技術の創出拠点 (ナノメートルレベルの表面創成システムの開発)	大阪大学	工学研究科附属超精密科学研究センター	遠藤 勝義
H13	安全と共生のための都市空間デザイン戦略	神戸大学	工学研究科建築学専攻、市民工学専攻	重村 力
H14	循環型住空間システムの構築	九州大学	人間環境学府空間システム専攻	川瀬 博
H15	水素利用機械システムの統合技術	九州大学	工学府機械科学専攻	高田 保之
H16	衝撃エネルギー科学の深化と応用	熊本大学	自然科学研究科複合新領域科学専攻	秋山 秀典
H17	巨大都市建築ストックの賦活・更新技術育成	首都大学東京	都市環境科学研究科建築学専攻	深尾 精一
H18	知能化から生命化へのシステムデザイン	慶應義塾大学	理工学研究科開放環境科学専攻	吉田 和夫
H19	操作能力熟達に適應するメカトロニクス	東京電機大学	先端科学技術研究科先端技術創成専攻	古田 勝久
H20	先導的建築火災安全工学研究の推進拠点	東京理科大学	総合研究機構火災科学研究センター	若松 孝旺
H21	超高齢社会における人とロボット技術の共生	早稲田大学	創造理工学研究科総合機械工学専攻	藤江 正克
H22	都市・建築物へのウインド・イフェクト	東京工芸大学	工学研究科建築学専攻	田村 幸雄
※ H23	文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点	立命館大学	理工学研究科総合理工学専攻	村橋 正武

※(H23)立命館大学「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」の拠点については、大学からの辞退の申し出により、平成19年3月をもって拠点形成が中止となりました。

平成15年度採択【分野名：社会科学】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
I 01	新世代知的財産法政策学の国際拠点形成	北海道大学	法学研究科法律実務専攻	田村 善之
I 02	社会階層と不平等研究教育拠点の形成	東北大学	文学研究科人間科学専攻	佐藤 嘉倫
I 03	男女共同参画社会の法と政策—ジェンダー法・政策研究センター	東北大学	法学研究科総合法制専攻	辻村 みよ子
I 04	国家と市場の相互関係におけるソフトロー—ビジネスローの戦略的研究教育拠点形成	東京大学	法学政治学研究所	中山 信弘
I 05	先進国における《政策システム》の創出：比較政策システム・シナジー・コアの構築	東京大学	法学政治学研究所	高橋 進
I 06	市場経済と非市場機構との連関研究拠点	東京大学	経済学研究科経済理論専攻	吉川 洋
I 07	ものづくり経営研究センター	東京大学	経済学研究科経営専攻	藤本 隆宏
I 08	知識・企業・イノベーションのダイナミクス	一橋大学	商学研究科経営・マーケティング専攻	伊丹 敬之
I 09	現代経済システムの規範的評価と社会的選択	一橋大学	経済学研究科応用経済専攻	鈴木 興太郎
I 10	社会科学の統計分析拠点構築	一橋大学	経済研究所	斎藤 修
I 11	アジアの開発経験と他地域への適用可能性	政策研究大学院大学	政策研究科政策専攻	大野 健一
I 12	21世紀型法秩序形成プログラム	京都大学	法学研究科法政理論専攻	大石 眞
I 13	先端経済分析のインターフェイス拠点の形成 (理論・応用・政策の創生と融合)	京都大学	経済研究所	西村 和雄
I 14	アンケート調査と実験による行動マクロ動学	大阪大学	経済学研究科経済学専攻	筒井 義郎
I 15	「市場化社会の法動態学」研究教育拠点—規範生成・規整・紛争管理の多元性をめぐる理論構築と臨床応用—	神戸大学	法学研究科理論法学専攻	檜村 志郎
I 16	新しい日本型経済パラダイムの研究教育拠点—グローバル化と人口減少下の持続可能経済—	神戸大学	経済学研究科総合経済政策専攻	三谷 直紀
I 17	先端ビジネスシステムの研究開発教育拠点	神戸大学	経営学研究科現代経営学専攻	加護野 忠男
※ I 18	金融市場のミクロ構造と制度設計	東京都立大学	社会科学研究科経済政策専攻	渡部 敏明
I 19	市場の質に関する理論形成とパネル実証分析—構造的経済政策の構築にむけて—	慶應義塾大学	経済学研究科経済学専攻	吉野 直行
I 20	多文化多世代交差世界の政治社会秩序形成—多文化世界における市民意識の動態—	慶應義塾大学	法学研究科政治学専攻	小林 良彰
I 21	日本・アジアにおける総合政策学先導拠点—ヒューマンセキュリティの基盤的研究を通して—	慶應義塾大学	政策・メディア研究科政策・メディア専攻	國領 二郎
I 22	開かれた政治経済制度の構築—早稲田大学国際政治経済研究センター構想—	早稲田大学	経済学研究科応用経済学専攻	藪下 史郎
I 23	企業社会の変容と法システムの創造—企業・金融資本市場法制度の再構築とアジアの挑戦—	早稲田大学	法学研究科民事法学専攻	上村 達男
I 24	福祉社会開発の政策科学形成へのアジア拠点	日本福祉大学	福祉社会開発研究科社会福祉学専攻	二木 立
I 25	技術・企業・国際競争力の総合研究	同志社大学	総合政策科学研究科総合政策科学専攻	中田 喜文
I 26	「人類の幸福に資する社会調査」の研究：文化的多様性を尊重する社会の構築	関西学院大学	社会学研究科社会学専攻	高坂 健次

※(I 18)東京都立大学「金融市場のミクロ構造と制度設計」の拠点については、大学からの辞退の申し出により、平成16年12月をもって拠点形成が中止となりました。

平成15年度採択【分野名：学際・複合・新領域】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
J01	新・自然史科学創成：自然界における多様性の起源と進化	北海道大学	理学研究院自然史科学部門	岡田 尚武
J02	スラブ・ユーラシア学の構築：中域圏の形成と地球化	北海道大学	スラブ研究センター	家田 修
J03	こころを解明する感性科学の推進	筑波大学	人間総合科学研究科感性認知脳科学専攻	榎 正幸
J04	生物多様性・生態系再生研究拠点	東京大学	農学生命科学研究科生圏システム学専攻	鷲谷 いづみ
J05	心とことば—進化認知科学的展開	東京大学	総合文化研究科言語情報科学専攻	長谷川 寿一
J06	大規模知識資源の体系化と活用基盤構築	東京工業大学	情報理工学研究科計算工学専攻	古井 貞照
J07	ジェンダー研究のフロンティア—<女> <家族> <地域> <国家>のグローバルな再構築—	お茶の水女子大学	ジェンダー研究センター	戒能 民江
J08	グリーンエネルギー革命による環境再生	長岡技術科学大学	工学研究科エネルギー・環境工学専攻	原田 秀樹
J09	東洋の知に立脚した個の医療の創生	富山大学	医学薬学教育部東西統合医学専攻	嶋田 豊
J10	知識科学に基づく科学技術の創造と実践	北陸先端科学技術大学院大学	知識科学研究科知識システム基礎学専攻	中森 義輝
J11	同位体が拓く未来—同位体科学の基盤から応用まで—	名古屋大学	工学研究科マテリアル理工学専攻	山本 一良
J12	ゲノム科学の知的情報基盤・研究拠点形成	京都大学	化学研究所バイオインフォマティクスセンター	金久 實
J13	微生物機能の戦略的活用による生産基盤拠点	京都大学	農学研究科応用生命科学専攻	清水 昌
J14	東アジア世界の人文情報学研究教育拠点—漢字文化の全き継承と発展のために—	京都大学	人文科学研究所	高田 時雄
J15	循環型社会への戦略的廃棄物マネジメント	岡山大学	環境学研究科資源循環学専攻	田中 勝
J16	社会的環境管理能力の形成と国際協力拠点	広島大学	国際協力研究科開発科学専攻	松岡 俊二
J17	ストレス制御をめざす栄養科学	徳島大学	ヘルスバイオサイエンス研究部	武田 英二
J18	感覚特性に基づく人工環境デザイン研究拠点	九州大学	芸術工学府芸術工学専攻	栃原 裕
J19	生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界	九州工業大学	生命体工学研究科脳情報専攻	山川 烈
J20	「平和・安全・共生」研究教育の形成と展開	国際基督教大学	行政学研究科行政学専攻	村上 陽一郎
J21	新機能微生物科学とナノテクノロジーの融合	東洋大学	バイオ・ナノエレクトロニクス研究センター	前川 透
J22	環境適応生物を活用する環境修復技術の開発	日本大学	生物資源科学研究科生物環境科学専攻	佐々木 恵彦
J23	人類文化研究のための非文字資料の体系化	神奈川大学	歴史民俗資料科学研究科歴史民俗資料学専攻	福田 アジオ
J24	—神教の学際的研究（文明の共存と安全保障の視点から）	同志社大学	神学研究科神学専攻	森 孝一
J25	クロマグロ等の魚類養殖産業支援型研究拠点	近畿大学	水産研究所	熊井 英水

平成16年度採択【分野名：革新的な学術分野】

拠点番号	拠点プログラムの名称	機関名	中核となる専攻等名	拠点リーダー名
K01	トポロジー理工学の創成	北海道大学	工学研究科応用物理学専攻	丹田 聡
K02	海洋生命統御による食糧生産の革新－海の生物の高度で安全な活用を目指して	北海道大学	水産科学研究所海洋応用生命科学部門	山内 皓平
K03	熱－生命システム相関学拠点創成：生物の寒冷応答機構をモデルとして	岩手大学	連合農学研究科寒冷圏生命システム学専攻	上村 松生
K04	医薬開発統括学術分野創生と人材育成拠点	東北大学	薬学研究科医療薬科学専攻	今井 潤
K05	加速器テクノロジーによる医学・生物学研究	群馬大学	医学系研究科医科学専攻	中野 隆史
K06	持続可能な福祉社会に向けた公共研究拠点	千葉大学	人文社会科学研究科公共研究専攻	廣井 良典
K07	言語から読み解くゲノムと生命システム－次世代バイオインフォマティクス拠点の創成－	東京大学	新領域創成科学研究科情報生命科学専攻	高木 利久
K08	次世代ユビキタス情報社会基盤の形成	東京大学	情報学環・学際情報学府学際情報学専攻	坂村 健
K09	インスティテューショナル技術経営学－日本型共進ダイナミズムの解明と世界価値への昇華	東京工業大学	社会理工学研究科経営工学専攻	渡辺 千仞
K10	エージェントベース社会システム科学の創出	東京工業大学	総合理工学研究科知能システム科学専攻	出口 弘
K11	地球：人の住む惑星ができるまで	東京工業大学	理工学研究科地球惑星科学専攻	高橋 栄一
K12	ヨーロッパの革新的研究拠点－衝突と和解	一橋大学	法学研究科法学・国際関係専攻	山内 進
K13	発達・学習・記憶と障害の革新脳科学の創成：文理架橋型研究による挑戦の第一ステージ	金沢大学	医学系研究科脳医学専攻	東田 陽博
K14	検証進化可能電子社会－情報科学による安心な電子社会の実現－	北陸先端科学技術大学院大学	情報科学研究科情報システム学専攻	片山 卓也
K15	衛星生態学創生拠点－流域圏をモデルとした生態系機能評価－	岐阜大学	流域圏科学研究センター	村岡 裕由
K16	ナノビジョンサイエンスの拠点創成	静岡大学	創造科学技術大学院自然科学系教育部ナノビジョン工学専攻	三村 秀典
K17	計算科学フロンティア	名古屋大学	工学研究科計算理工学専攻	金田 行雄
K18	昆虫科学が拓く未来型食料環境学の創生	京都大学	農学研究科応用生物科学専攻	藤崎 憲治
K19	細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成	大阪大学	医学系研究科病態制御医学専攻	仲野 徹
K20	古代日本形成の特質解明の研究教育拠点	奈良女子大学	人間文化研究科比較文化学専攻	舘野 和己
K21	染色体工学技術開発の拠点形成	鳥取大学	医学系研究科機能再生医科学専攻	押村 光雄
K22	超速ハイパーヒューマン技術が開く新世界（21世紀産業革命に向けて）	広島大学	医歯薬学総合研究科創生医科学専攻	岡島 正純
K23	サンゴ礁島嶼系の生物多様性の総合解析：アジア太平洋域における研究教育拠点形成	琉球大学	理工学研究科海洋環境学専攻	土屋 誠
K24	疲労克服研究教育拠点の形成	大阪市立大学	医学研究科基礎医科学専攻	渡邊 恭良
K25	日本漢文学研究の世界的拠点の構築	二松学舎大学	文学研究科中国学専攻	高山 節也
K26	伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓－生物分子基盤の革新的難病治療薬創製－	京都薬科大学	薬学研究科薬学専攻	木曾 良明
K27	社会マネジメント・システム～社会基盤工学的視点によるアプローチ～	高知工科大学	工学研究科基盤工学専攻	那須 清吾
K28	柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム	九州産業大学	芸術研究科造形表現専攻	下村 耕史

〈参考2〉 21世紀COEプログラム採択拠点における個別具体例について

平成14年度採択

※プログラム終了後（平成19年度）に実施した事後評価時における取組例を掲載

生命科学

京都大学「生物多様性研究の統合のための拠点形成」

人材育成面では、マクロとミクロの両面を理解し、生物多様性の統合の新領域を開拓する資質を備えた研究者養成を目指し、生物多様性科学モデルカリキュラムの設定、インターラボの導入など、大学院教育の改革の新しい試みを導入し、真摯に努力した経過が認められ、新しいタイプの研究者が育ちつつあります。研究活動面では、マクロとミクロの融合領域で、互いの研究交流から生まれた成果を評価することにより、今度更なる顕著な成果が出されることが期待されます。

奈良先端科学技術大学院大学「フロンティアバイオサイエンスへの展開」

創設後の歴史の浅いことを利点に、学部を持たない比較的小規模の大学院大学として、本COEプログラムを活用しながら、研究・教育の在り方に一定の方向性を示した点は高く評価できます。人材育成面では、TOEIC等による英語学習等、ユニークな施策によって国際感覚を養う教育を実施し、研究活動面では、発表論文の被引用度ランキングから見られるように着実に進歩しています。

化学・材料科学

東京大学「動的分子論に立脚したフロンティア基礎化学」

人材育成面では、国際化に向けた特色ある教育プログラムを実施し、多数の若手化学教員を輩出・育成し、研究活動面では、“分子のダイナミズム”に立脚した4つのサブテーマいずれにおいても、質的レベルの高い多くの研究成果が見られ、基礎化学分野の教育・研究両面において世界トップレベルの成果を挙げています。

九州大学「分子情報科学の機能イノベーション」

人材育成面では、大学院生の国際化教育などの計画が十分実行されており、外国人を含む博士課程入学者の増加、ポスドクの他大学への分散化、企業への就職などキャリアパスの多様化が見られ、研究活動面では、拠点リーダーのリーダーシップの下で、素構造体、超構造体、計測・評価3グループいずれもが「分子情報科学」に対して大きな研究成果を挙げており、また多数の特許取得への努力もなされており、分野の広がり新たな分野の創成に寄与しています。

情報・電気・電子

北海道大学「知識メディアを基礎とする次世代ITの研究」

人材育成面では、国際性を持った大学院学生の育成強化、プロジェクト制研究の促進、ホットな知識を反映したカリキュラムにより成果を挙げ、産学連携での共同研究や人材を他大学に出すなど拠点としての成果を挙げ、リサーチアシスタント、ポスドクの雇用も積極的に推進されています。研究活動面では、知識メディア分野で新分野を創成し、質の高い研究がなされ、合同国際会議を度々開催するなど、世界的にも評価できます。

慶應義塾大学「アクセス網高度化光・電子デバイス技術」

人材育成面については、先端科学技術セミナー、科学技術倫理と著作権、国際インターンシップ科目を設置し、分野横断的教育や国際的研究者の育成が推進されています。研究活動面については、UWB（超広域帯無線技術）によるLSI（大規模集積回路）の無線配線などにおいて世界的な成果を挙げつつあり、また、研究に止まらず、コンソーシアムの設立など、産学連携により実用技術に育成しつつあります。光・電子デバイス技術とアクセスネットワーク技術を融合させ、アクセス網の高度化技術を研究・教育するユニークなプログラムです。

人文科学

北海道大学「心の文化・生態学的基盤に関する研究拠点」

ゲーム理論を中心に据えての「心の文化・生態学的基盤に関する研究」というテーマによる、先鋭化したアプローチを全面に打ち出すことにより明瞭な成果が出されており、海外との連携、国際的活動等のめざましい成果は、国際的にも注目されています。

慶應義塾大学「心の解明に向けての統合的方法論構築」

人材育成面では、COE研究員を中心とする若手研究者の研究活動、外国大学等との交流活動への参加によって研究活動が活性化され、課程博士の授与数が飛躍的に増加しています。研究活動面では、光トポグラフィによる脳研究と論理的・倫理的・美的判断の研究成果の間の連携で成果を挙げ、感情表現の対象言語学研究、古代・中世哲学の側からの言語論的研究がこれらに呼応しつつみるべき成果を挙げています。海外の大学、研究機関との長期にわたる研究交流をくりひろげて着々と成果を挙げており、国際競争力ある大学づくりに大きく貢献しています。

学際・
複合・
新領域**東京外国語大学「史資料ハブ地域文化研究拠点」**

人材育成面では、ポスドク研究員や大学院生を海外に派遣し、史資料事業の実践的研究・教育の機会を提供するとともに、大学院に在籍するアジア・アフリカ留学生をティーチングアシスタント・リサーチアシスタントとして雇用し、史資料の収集、情報化事業に参加させ、現地研究者の育成に貢献しています。研究活動面では、14カ国の研究機関等や、欧米の史資料コンソーシアムとの強力な連携が図られ、アジア・アフリカ諸言語史資料に関する基幹的史資料に関する基幹的史資料ハブセンターとしての機能を発展させることに成功し、領域横断的な地域文化研究教育拠点が確立されています。

愛媛大学「沿岸環境科学研究拠点」

スペシメンバンクを中心とし、拠点リーダーの優れた実績と能力に基づく強力なリーダーシップにより、貴重かつユニークな研究教育活動が展開されています。また、収集された試料による研究も、その視野に十分入れられており、今後の発展が期待されます。人材育成面では、多数の若手研究者を

平成15年度採択

※プログラム開始2年経過後(平成17年度)に実施した中間評価時における取組例を掲載

医学系

京都大学「病態解明を目指す基礎医学研究拠点」

世界最高水準の拠点として、特に遺伝子異常が密接に関連することが明確な、免疫、癌、老化の各分野の研究活動において、優れた業績を上げ、各分野間の有機的な連携にも配慮がなされており、若手研究者の育成にも有効な工夫と戦略が認められ成果を上げるなど、研究教育拠点形成の実現に向けた取組が順調に進められています。

慶應義塾大学「幹細胞医学と免疫学の基礎・臨床一体型拠点」

世界最高水準の拠点として、幹細胞生物学・再生医学、免疫学・自己免疫疾患研究において、世界レベルの研究成果を上げており、基礎・臨床が総力を上げて難治性疾患の病態解明と新しい治療法の研究開発とそれに向けた将来の人材育成を目指すなど、研究教育拠点としての取組が順調に進められています。

兵庫県立大学「ユビキタス社会における災害看護拠点の形成」

ユビキタス社会の発想を基幹とした災害看護という初めての専門コースを設置し、国内外から災害看護に関してコンサルテーションや情報提供の要請を受けるなど学内外に対するインパクトがあります。また、国際防災世界会議において、災害と健康の重要性を認識させるなど、学会等における活発な活動もなされており、大学に新たな個性を付加する拠点として推進されています。

自治医科大学「先端医科学の地域医療への展開」

地域医療推進と先端医科学研究（遺伝子治療を含むゲノム医療／再生医療）の2本柱で研究教育を行うなど大変ユニークな取り組みがなされ、また、大規模地域ゲノムタンパクプロジェクトの取組は極めて重要であり、研究参加者同士の連携も十分図られ、我が国のスタンダードになることが期待されるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

東京医科歯科大学「歯と骨の分子破壊と再構築のフロンティア」

若手研究者の育成や大学院生の教育の面において、シャペロン教員制度やスーパースチューデント制度といった、極めてユニークかつ有効な人材育成システムを設けており、その成果は国際的にも高い評価を得るなど、世界をリードする人材育成が順調に進められています。

長崎大学「熱帯病・新興感染症の地球規模制御戦略拠点」

熱帯病・新興感染症制圧に関し、海外の研究教育機関・病院と密接な連携を図り、感染症専門医師や感染症研究者を海外拠点連携病院・研究所で養成することを目的としており、現地の医療従事者が参加しやすいプログラムが展開され、そこで、日本の若手研究者も一緒に教育を受けるなど大変意義深い人材育成の取組がなされています。

東京大学「強相関物理工学」

世界最高水準の拠点として、世界レベルの若手教員の採用と研究室立ち上げの支援を行い、既に成果を上げており、人材育成については「応用物理分野における次世代の世界的リーダーを輩出すること」を目標に掲げ、世界レベルの研究教育ネットワークによる研究成果の発信がなされるなど、世界に開かれた研究教育拠点形成の実現に向けた取組が順調に進められています。

京都大学「先端数学の国際拠点形成と次世代研究者育成」

世界最高水準の拠点形成を通じて、事業推進担当者や若手研究者が藤原賞、日本数学会春季賞・秋季賞を受賞するなど多くの成果が出ており、国際的な研究集会が日常的に行われているといった環境の整備なども含め、研究教育拠点形成の実現へ向けた取組が順調に進められています。

東北大学「物質階層融合科学の構築」

ニュートリノ研究、ハイパー原子核研究、強相関電子物理学研究、非線形数学研究において学内外に対するインパクトがあり、物質階層融合科学研究の国際的な教育研究拠点としての活動がなされており、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

北海道大学「特異性から見た非線形構造の数学」

学内他専攻の研究者が、先端研究を推進する上で生じた数学上の質問を受け付け、その解決に取り組む「先端研究のための数学センター」を設置し、積極的に他分野の問題を数学に取り込もうとするなど極めてユニークな取り組みがなされており、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

岡山大学「固体地球科学の国際研究拠点形成」

超高压・高温実験と総合的地球化学分析ならびに年代測定技術といった、高度な実験・分析の手法を駆使して地球物質科学研究を実施できる世界的にも極めてユニークな拠点であり、国際的な研究教育環境が整備され、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

東北大学「先端地球科学技術による地球の未来像創出」

理学、工学の異なる分野の連携・融合という目的を実現するカリキュラムを組み、地学・地球物理学・環境科学の3専攻の相互の単位取得を容易にするといった取組が行われるなど、世界をリードする幅のある研究者の育成が期待される拠点として順調に推進されています。

東京大学「都市空間の持続再生学の創出」

世界最高水準の拠点として、都市空間の持続再生学の創成に必要な要素研究が進展しており、アジア各都市の主要関係研究機関を網羅した国際共同研究組織を結成し、多角的な国際共同アクション・スタディを展開するなど、国際会議の組織開催と大学院生の会議参加が活発に行われており、研究教育拠点形成の実現に向けた取組が順調に実施されています。

名古屋大学「情報社会を担うマイクロナノメカトロニクス」

世界をリードする、マイクロナノ領域におけるシステム化技術に関する潜在的能力を最大限に発揮し、システム化技術を開発することにより、ナノテクノロジーを実用化する技術の体系化を目指して、国際競争力のある活発な取組が順調に推進されています。

熊本大学「衝撃エネルギー科学の深化と応用」

研究教育活動を行うにあたって重要となる世界レベルの研究施設・設備が構築され、平和利用を目指した爆薬実験施設や衝撃エネルギー連続発生装置、超重力エネルギー発生装置等を駆使してユニークな研究活動がなされており、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

機械・
土木・
建築・
その他
工学

東京工芸大学「都市・建築物へのウインド・イフェクト」

強風災害や気流と都市・建築物に関わる諸問題の解決を目的とし、APEC諸国の強風防災センターや研究者とのネットワーク等を通じた普及活動がなされ、国際的にも高い評価を得るなど、学内外にインパクトを与え、風工学研究センターの国際的な拠点となることが期待されます。

立命館大学「文化遺産を核とした歴史都市の防災研究拠点」

文化遺産をもつ歴史都市の防災研究を目的として、文化遺産防災連絡会議の設立や、国連防災世界会議におけるユネスコや国土交通省、消防庁、文化庁からの協力を得たことにより、歴史都市を持つ国々との連携等が期待されるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

北海道大学「流域圏の持続可能な水・廃棄物代謝システム」

世界をリードする創造的な人材育成に力を入れ、研究レベルの向上と国際性を身につけさせるために、若手研究者を世界トップレベルの研究機関へ派遣するなど、大学院生、若手研究者の育成が順調に行われています。

社会科学

東京大学「ものづくり経営研究センター」

我が国の「ものづくり知」「産業知」を産業界の代表的企業とのコンソーシアムの形成によって、体系化・理論化し、国際的に発信するという従来の我が国の社会科学には見られなかった研究体制を構築しつつあり、本来の研究面における使命に加え、産業界・国際間の技術移転を促進するという社会貢献をもねらいとした世界に他に類を見ない研究教育拠点形成の実現へ向けた取組が順調に進められています。

政策研究大学院大学「アジアの開発経験と他地域への適用可能性」

国際開発政策に関して、政策枠組みを重視する傾向にある国際機関や欧米の学界に対し、本拠点は東アジアにおける貧困削減について、経済成長の実態を実証的に検証し、他途上国へのその経験の移植可能性を比較分析的に追求し、国際的視野での政策研究の拠点を目指しています。特に、ベトナムにおける調査研究拠点の形成、途上国および日本の開発担当行政官や研究者を対象とする大学院教育プログラム、個別の国・分野の研究に限定されない比較分析を視野に入れているなど、世界水準での研究教育拠点形成に向けた取組が順調に進められています。

東京大学「国家と市場の相互関係におけるソフトロー」

国の法律として最終的には裁判所による強制力を持った規範に対し、これまで日本では比較的軽視されてきた非公式の規範、規制、民間協約などの、ソフトローの実体の解明と理論分析を目的としており、研究教育用のデータ構築、ビジネスローにおける国際的な研究・実務に携わる専門家の育成について国際水準の努力が期待され、また法学の分野での開かれた研究にインパクト与えつつある拠点として順調に推進されています。

大阪大学「アンケート調査と実験による行動マクロ動学」

個人合理性を仮定した従来の経済学の基本的仮説に対し、アンケート調査、実験経済学、心理学等の他分野との協力などによって、経済学が実証的な科学として成立するための方法論・データを確立し、統一された行動経済学の研究拠点を形成しようという活動は、今日の経済学のフロンティアにおける問題意識と合致し、世界水準での研究の発展に資することが期待される拠点として順調に推進されています。

社会科学

慶應義塾大学「多文化多世代交差世界の政治社会秩序形成」

日本・韓国・EU等における市民意識調査や行動に関する様々なデータが着実に蓄積されており、メディアの内容分析についてもより精緻な技術的工夫がなされ、研究体制を組織するための学内・学外の諸機関との有機的連携も図られるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

神戸大学「先端ビジネスシステムの研究開発教育拠点」

現場に根ざした調査を核として、ビジネスシステムの研究と教育を相乗的に発展させる独自の教育プログラムにより、次世代の若手研究者の育成が実施されており、教育研究拠点の形成に向けた取組が順調に推進されています。

学際・
複合・
新領域**富山大学「東洋の知に立脚した個の医療の創生」**

東洋医学に近代科学の新しい手法を積極的に取り入れ検証していこうとする姿勢により、新しい統合医学の方向性を提示することを目指しており、既にプロテオーム解析が試みられ、それらの具体的な成果も上げられつつあるなど、世界をリードする研究教育拠点の形成に向けた取組が順調に実施されています。

京都大学「ゲノム科学の知的情報基盤・研究拠点形成」

世界最高水準の拠点として、ゲノムとケミストリーを融合したバイオインフォマティクスにより生命の情報システムを理解することを目指しており、拠点リーダーの研究グループの成果はKEGGとして国際的にも広く認識され、国際競争力のある活発な取組が順調に進められています。

北海道大学「スラブ・ユーラシア学の構築」

「中域圏」の概念を精緻化して、新しい地域研究として系統的に学問の枠組みと方法論が構築されつつあるなど、学内外にインパクトがあり、理論化に挑戦したスラブ・ユーラシア学地域研究の研究教育拠点として大いに期待がもてるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

徳島大学「ストレス制御をめざす栄養科学」

成分研究が主流であった栄養科学の分野において、ストレス評価用のDNAチップや新規ナノバイオデバイス技術といった新しい遺伝子技術を用いるユニークな試みにより、ストレス・栄養科学の新しい領域の創設を目指す拠点形成が進められるなど、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

九州工業大学「生物とロボットが織りなす脳情報工学の世界」

大学院生に対して半年毎に全く異なる専門分野の研究室で専門教育を行うことにより、多分野をカバーできる研究者を育成しようとするなど、広範囲の領域を取り扱うことを逆用した試みが上手く機能しており、脳情報工学の分野において世界をリードする若手研究者の育成がなされています。

平成16年度採択

※プログラム開始2年経過後（平成18年度）に実施した中間評価時における取組例を掲載

革新的な
学術分野**東京工業大学「地球：人の住む惑星ができるまで」**

地質・地球物理・地球化学・惑星科学という従来から関連して進められている分野に環境学・生命科学を融合させて、革新的分野として生命惑星地球学の創出を目指す当拠点は、2年間に230編という優れた国際的研究業績を挙げるのみならず、研究科を横断した「生命惑星地球学特別コース」や「地球史研究センター」の設置など、人材育成や有機的連携面での措置も充実しており、世界的な研究教育拠点の実現に向けた取り組みが順調に進められています。

京都薬科大学「伝承からプロテオームまでの統合創薬の開拓」

COE発足以前から大学が持つ豊富な素材と実績を基盤に、難治性疾患の治療に資する数々の研究成果を挙げるとともに、英語による研究交流会の開催、関連分野への短期参画、アドバイザーとの定期的交流など、きめ細やかな少人数教育体制のもと、世界をリードする人材育成が順調に進められています。

岐阜大学「衛星生態学創生拠点」

生態プロセス研究、リモートセンシング解析、気象観測・モデリングの融合・統合を図り、総合的・実践的な環境科学である「衛星生態学」の創生を目指す当拠点は、小規模の研究組織体制ながら、リモートセンシングを用いた高山における長期CO₂観測サイトとして国際的な評価を受けており、世界水準での研究の発展に資することが期待される拠点として順調に推進されています。

大阪大学「細胞・組織の統合制御にむけた総合拠点形成」

基礎研究から臨床応用までを直結させた再生医学（人工臓器等の組織・臓器代替医療技術）を確立することを目標とし、基礎医学、生物学、臨床医学、工学等、異分野間の有機的連携面で目覚ましい進展を見せているほか、実際の研究活動でも数々の優れた成果を挙げており、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に進められています。

九州産業大学「柿右衛門様式陶芸研究センタープログラム」

柿右衛門様式磁器の全体像を作陶現場との協同によって解明し、さらにはその成果を大学院カリキュラムに反映させ伝統工芸のレベルアップを図るというユニークな試みは、日本文化の発展、発信という点からきわめて意義が大きく、文様データベースの構築や国内外における磁器の所在調査等、大学に新たな個性を付加する拠点として順調に推進されています。

二松学舎大学「日本漢文学研究の世界的拠点の構築」

日本漢文学の学際的・国際的研究体制の構築を目指す当拠点は、我が国の文化の理解、保存、発展、さらには発信に大きく貢献することが期待され、江戸期漢文データベースの構築等の意義深い取り組みが進められています。

事業内容全般に関する問い合わせ先

文部科学省高等教育局大学振興課大学院係
〒100-8959 東京都千代田区霞ヶ関3丁目2番2号
電話：03-5253-4111 内線 3312
FAX：03-6734-3387

審査・評価に関する問い合わせ先

独立行政法人日本学術振興会研究事業部研究事業課
21世紀COEプログラム委員会事務局
〒102-8472 東京都千代田区一番町8番地
電話：03-3263-1758
FAX：03-3237-8015

「21世紀COEプログラム」についての詳細は、下記HPに掲載しております

文部科学省 http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/coe/
独立行政法人日本学術振興会 <http://www.jsps.go.jp/j-21coe/>